

～はばたきコース～

<大賞 1 団体>

- 特定非営利活動法人 子ども自立支援スマイル（大阪）／50 万円
「里親啓発、里親子の交流自立支援事業～「はぐくみRUNフェスタ」の開催

<p>団体概要</p>	<p>里親型ファミリーホームの運営を通して、社会的擁護を必要とする子どもたちや子育てに悩む保護者を支援し、すべての子どもたちが安心して暮らせる社会の実現をめざして、2015 年 9 月に NPO 法人として設立された団体。</p> <p>ファミリーホームの運営のほか、発達障がい等の課題を抱えた子どもたちを対象にした音楽療法、里親制度の理解・普及活動や自立就労支援などに取り組んでいる。</p>
<p>事業概要</p>	<p>これまで 5 年間にわたって「大阪・淀川市民マラソン」開催時に、里親制度の啓発活動を実施してきたが、本事業は 2017 年 10 月の里親推進月間に合わせ、“はぐくみマラソン”（親子ペアウォーク・ハロウィン仮装ウォーク・リレーマラソン・10 km マラソン）を実施し、参加者には里親啓発用の T シャツを着用し、社会的養護の現状と、里親制度を広く認知してもらうことを目的に実施する内容。</p> <p>実施にあたって、里親・施設職員などの児童福祉関係者、医療施設の職員、大学教授や大学生など、さまざまな分野の人材が集まって実行委員会を立ち上げて、当法人共催で活動を開始。2017 年 10 月 29 日（日）に、里親子・施設児童・職員・一般から、大人 200 名、子ども 100 名程度での開催を企画している。</p>
<p>講評</p>	<p>当事業は、社会的養護の現状や里親制度について、広く一般の人々に理解を広げることが目的としている。現在の里親制度の状況などが共有され、社会的認知が広がること、さまざまな人たちへの参画を広げていること、活動への賛助金が増えれば継続的な自主運営や全国展開につながるなど、「社会性」や「発展性」「市民の参加と資源の活用」などの面で、本事業は高く評価された。</p> <p>審査委員会の中では、里親のなり手は近年少しずつ増えているものの、里親及びファミリーホームへの里親等委託率は依然低いこと等が議論され、当事業の目的が社会的課題に光をあてる本アワードの趣旨と合致しており、大賞団体として相応しい内容であると判断された。</p> <p>本アワードの助成をきっかけとして、里親制度の社会的認知を広め、子どもたちが安心して暮らせる社会の実現へ活動を拡げていただきたい。</p>

<優秀賞 2団体>

■ 認定特定非営利活動法人 アゴラ音楽クラブ（奈良）／30万円

「私たちの和太鼓演奏を世界の人に」

<p>団体概要</p>	<p>身体・精神あるいは知的に障がいを持つ人たちが音楽を楽しみ、かつ継続的な音楽演奏活動を行うことを支援し、知的障がい者を対象にピアノ・マリンバ・和太鼓及びダンスのレッスンをを行い、演奏能力の向上とともに、身体運動機能の向上やコミュニケーション能力などの社会生活への適応能力の向上をめざしている団体。</p> <p>1988年に創設した音楽教室に自閉症の少年が入会し、知的障がいを持つ子どもの音楽指導を始めたことがきっかけとなり、2002年に「アゴラ音楽クラブ」を立ち上げ、音楽療法の研究部門も加え、NPO法人として2011年に再編した。</p> <p>現在では、療育者のためのワークショップ・体験講座の開催、幼児のための講座などの他、和太鼓グループ「アゴラ太鼓」は地域のお祭りや各種イベント、学校や自治体の行事への出演も定着化し、メンバーの能力向上と自信にもつながっている。また、音楽活動が障がい改善にもたらす効果等について学術研究を行い、その成果を論文にしたり、学会等にて発表している。</p>
<p>事業概要</p>	<p>地域を中心に活動してきたが、かねてより活動を全国のみならず世界の人に披露し、音楽療法の可能性を広げたいとの思いがあった。そんな折、2017年7月に世界音楽療法学会の大会で演奏できるチャンスが訪れたため、和太鼓チームのメンバーたちの上昇意欲を大切に、今後のステップアップにしたいと考えた。</p> <p>本事業は、上記の大会で「アゴラ太鼓」の演奏を行うことにより、メンバーの自信に満ちた、いきいきした姿を示すことを通して、和太鼓活動が音楽療法の一つの方法として世界で認められるきっかけになることをめざして実施する内容。</p>
<p>講評</p>	<p>本団体は長年にわたって音楽活動とともに研究活動を行っており、実践と研究・検証の両面において、単なる音楽演奏の領域を超えた活動となっている。さらに、実践にあたっては、地域との交流も強く意識しており、活動に対する理解を広めるための努力も行われている。本事業では、地域の活動に留まっていた本団体が、全国や世界を見据えたステップアップの機会と位置付けており、審査委員会では、「発展性」や「チャレンジ性」の高い内容であると評価した。</p> <p>地域との交流を一層深めつつ、障がい者に対する理解促進と音楽療法の可能性の拡大に向けて、今回の事業をきっかけに活動が大きく広がることを期待したい。</p>

■ 特定非営利活動法人 チャーム（大阪）／20万円

「乳児家庭全戸訪問事業及び母子保健分野における保健医療通訳者養成事業」

<p>団体概要</p>	<p>医療や福祉にアクセスできない外国籍のH I V陽性者に対応するための小回りのきく民間団体の設立の必要性を痛感したのがきっかけとなり、医療従事者や外国人支援者が中心となって2002年にN P O法人として設立された団体。</p> <p>すべての人が健康に過ごせる社会をめざして、日本語以外の言葉を母国語とする人たちへの健康情報の提供や、検査や相談の機会と診療を受ける保障、日本社会の多言語化への取組みを地域の人々や他機関と共に実施している。</p>
<p>事業概要</p>	<p>厚生労働省は2009年から「乳児家庭全戸訪問事業」を開始しているが、当団体の調査では、外国人親の多くが言葉が通じないために「保健師との間の意思疎通ができなかった」と答えており、専門知識を持った通訳者の育成が不可欠であるとの問題意識を持った。</p> <p>本事業では、全国の保健所で実施している母子保健事業で、多言語に対応するために8言語（英語・中国語・スペイン語・ポルトガル語・タガログ語・タイ語・ベトナム語・インドネシア語）で医療通訳者の研修を実施する内容。このような研修実施を通して、外国人親と保健師や助産師が双方向のコミュニケーションをとることができれば、母子の健全な成長の支援や虐待防止の指導・支援を届けることが可能となる。</p>
<p>講評</p>	<p>当事業は、すべての人が受けることができるはずの母子保健支援が、言語という障壁によって受けられないことの解決をめざす事業である。事業実施にあたっての調査の裏付けがあり、他団体との連携や本団体の構成員の専門性も高い。審査委員会では、当事業が取り組む課題は緊急性が高く、企画の「社会性」や「先進性」を高く評価した。</p> <p>本アワードの助成が、自治体や制度に対する言語支援の政策化に向けた提言や、多文化共生社会の実現につながることを大いに期待したい。</p>

(助成金額順)